

果樹カメムシ情報第4号

平成21年10月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 発生状況

(1) 予察灯におけるチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシの誘殺数は9月下旬に入り急激に増加しました(図1、2)。しかし、現在のところ、山際の一部のほ場で果樹園への飛来が確認されているものの、多数の飛来や果実の被害は確認されていません。

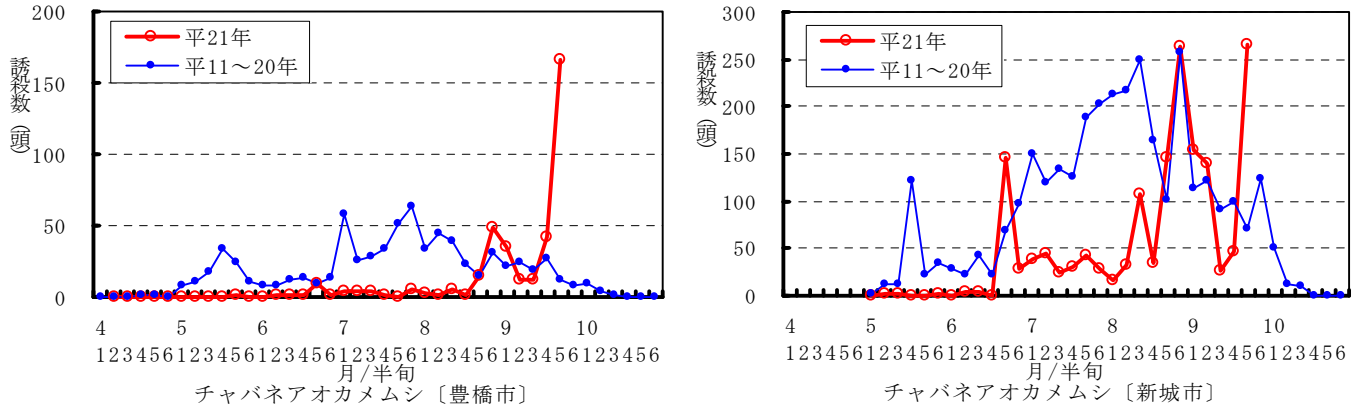


図1 予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺状況

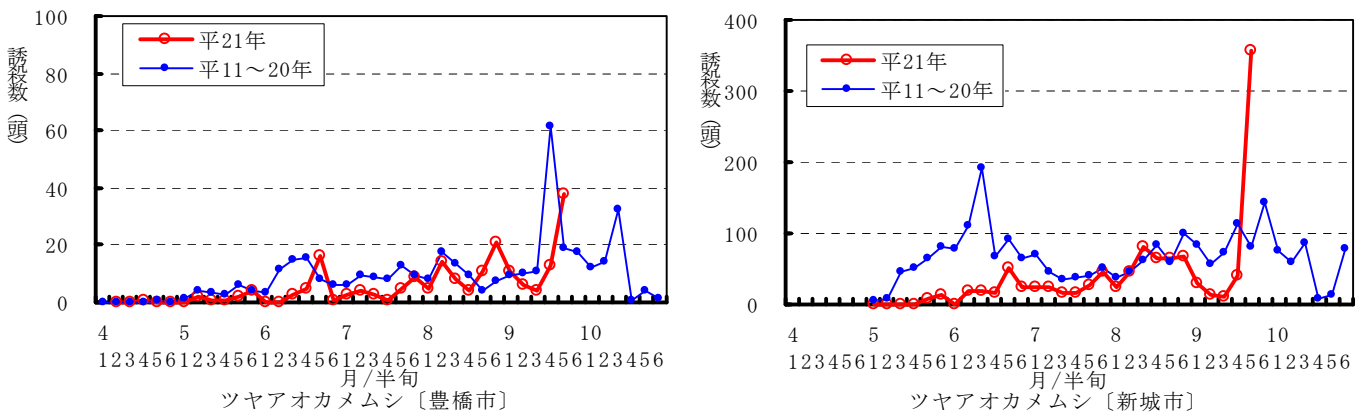


図2 予察灯におけるツヤアオカメムシの誘殺状況

(2) 9月上旬のヒノキ1結果枝当たりのチャバネアオカメムシ寄生虫数は、成虫5.0頭、幼虫1.5頭(平年:成虫1.5頭、幼虫0.5頭)で過去9年のデータと比較して最も多くなっています(詳細は9月15日発表の「果樹カメムシ情報第3号」参照)。

2 今後の発生予測と防除

カメムシが山林で主要な餌としているヒノキ球果が吸汁しつくされ適さなくなると果樹園へ飛来します。予察灯におけるチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシの誘殺数が急激に増加したことから果樹園へいつ飛来してもおかしくない状況です。

今後も、果樹園内をよく見て回り、飛来を確認したら、収穫前日数に注意して防除しましょう(表)。防除後も飛来が続く場合は10~15日後に再度防除を実施してください。

表 カメムシ類に対する主な防除薬剤と使用基準

作物名	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
カンキツ	アグロスリン水和剤	2000倍	7日	5回
カキ・ミカン	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	前日	3回
カキ	アグロスリン水和剤	1000~2000倍	前日	3回